

石見オロチCOREハイスクール・ネットワーク構想

【現状】

- ①人口が島根県東部に偏在し、西部は人口も少ない。また西部は中山間地域で、大学など高等教育機関も少ないため、高大連携が進みにくく、県内大学への進学率が低い要因の一つとなっている。
- ②学校内では教育資源も限られ、中山間地域の学校では、生徒も幼少期から同級生が変わらず視点や視野も硬化しがちである。
- ③西部にある高校の多くが中小規模校。教員数が少なく、多様な選択科目の開講が単独では難しく、習熟度展開もしにくい。地歴科、理科教員は、専門外の科目を受けもつなど負担も大きい。
- ④西部出身の教員が少ない。教員の異動サイクルが早く、非常勤講師となる人材の確保も厳しく安定した学校経営が難しい。一方で勤務2～3校目の若手、中堅教員層が多いことも特徴である。
- ⑤各高校が設置した高校魅力化コンソーシアムは、それぞれに良さや特徴、またそれを生み出す手法等を持っているが、それを相互に共有する場や機会は多くない。各コンソーシアム間の情報交換の場が必要。

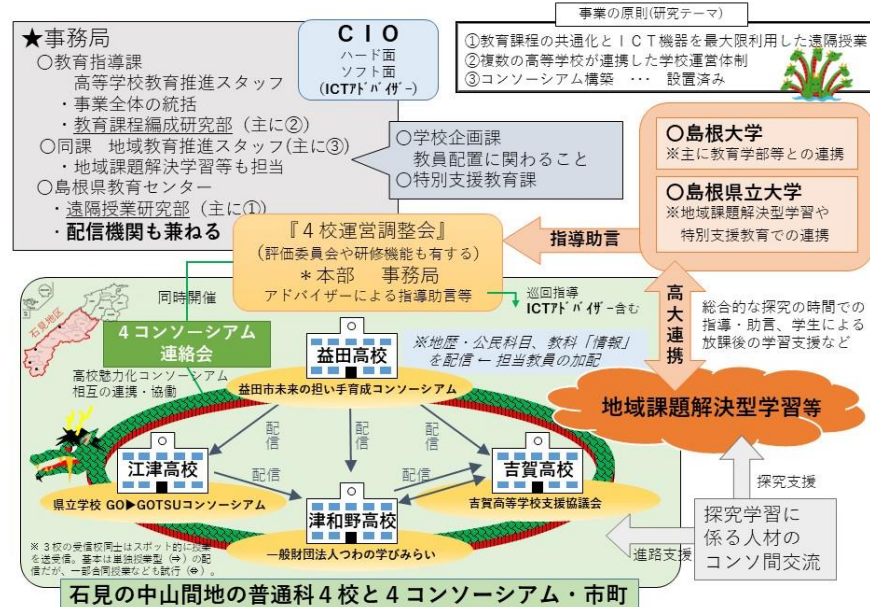
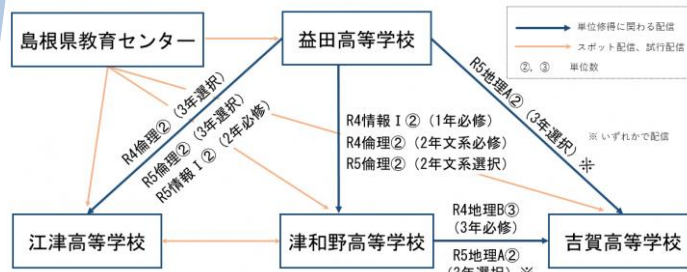
目的

～夢と絆を育むふるさと創生人の育成～

広い視野から自分の住む地域を見つめ、ふるさとに魅力を感じ、地域をよりよくしていこうとする生徒の育成を目指すとともに、自らの夢を再確認し挑戦していこうとする気持ち、オンラインによる4校間の交流や大学との連携、地域資源の最大活用を通して絆を再確認し深め広げていくことを目指す。

1. 遠隔事業に関する取組の概要

単独配信型（配信校側は生徒なし）を主とする。その中で、対面授業を主としながらも授業の一部を共同授業（配信校・受信校側双方に生徒あり）で行う授業方式についても検討する。また、将来的には地元の高校で職業系の専門科目の一部を学べるようにすることも視野に入れる。



2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

総合的な探究の時間（地域課題解決型学習）を4校合同で一部実施する。これに、県教委で構築を構想している「オンライン探究支援システム」（仮称）の支援機能を4校で先行的に活用していく。各校のコンソーシム相互の連携・協働を図るための「4コンソーシアム連絡会」を組織化し、4校間の交流や大学との連携、地域資源の最大活用を通してふるさと創生人の育成を図る。

3. ネットワークを構成する学校

-
- ・島根県立益田高等学校（普通科・理数科）
 - ・島根県立江津高等学校（普通科）
 - ・島根県立津和野高等学校（普通科）
 - ・島根県立吉賀高等学校（普通科）
 - ・島根県教育センター【試行配信、遠隔授業研究】



育成を目指す資質・能力

「広い視野から自分の住んでいる地域を見つめ、ふるさとに魅力を感じ、地域をよりよくしていこうとする生徒の育成」

- (1) 高大連携学力向上…大学の教官や学生の知見を得る
- (2) 地域愛の醸成…地域課題解決型学習を各校魅力化コンソーシアムと連携を図りながら充実させる
- (3) ICTリテラシー向上…ICT活用を増やす
- (4) 非認知領域(主体性、協働性、社会性、探究性)の育成…地域課題解決型学習等で自ら企画・行動する機会を増やす
- (5) 協働性の向上…自校のみならず他校を含めた活動の場面を増やす
- (6) 質の高い学びの保障による学力の向上…免許外教員の指導や未開講教科・科目を減らす

主なアウトプット(活動目標)

●研修の充実

遠隔教育・探究学習を軸としたカリキュラム・マネジメントを担う主幹教諭、授業担当者、探究学習推進担当者、魅力化コーディネーターなど、それぞれに応じた研修を実施

●探究学習の手引き作成

探究学習をリードする教職員や魅力化コーディネーターの知見や事例を集約した、「総合的な探究の時間ガイドブック」を作成

●支援人材活用のためのシステム構築

探究学習の質の向上を目指し、各学校やコンソーシアムが持つ支援人材を相互に活用しあう仕組みをつくるため、支援人材が交流できる場を設定

主なアウトカム(成果目標)

- 配信科目の遠隔授業に対する授業アンケートから、各観点別評価の項目に係る質問(4～1)に対し肯定的な回答をした生徒の割合(配信科目受講生徒平均)
…… 令和5年度 3.2以上/4点満点
- 配信科目の遠隔授業に対する授業アンケートから、授業満足度(4～1)に対し肯定的な回答をした生徒の割合(配信科目受講生徒平均)
…… 令和5年度 3.2以上/4点満点
- 免許外教科担任制度の活用件数
…… 令和5年度 1人
- 高校魅力化アンケート「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある。」に肯定的な回答をした生徒の割合(4校平均)
…… 令和5年度 75%
- 高校魅力化アンケート「地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ考える学習に対して、熱心に取り組んでいる。」に肯定的な回答をした生徒の割合(4校平均) …… 令和5年度 65%

委託期間終了後の見通し

中山間地域校における免許外教科指導の是正に向け、島根県教育センターと連携を図り、継続的な支援環境を整備する。その上で遠隔学習に関するセンター的機能の在り方について検討する。「しまね探究フェスタ」等の探究学習の成果発表会等での交流を通して、各コンソーシアムが持つ探究学習に係る人材を相互に活用できる仕組みを構築していく。